

第6回

# 漢方薬局

お答えいただいた方——株式会社誠心堂薬局 取締役 医療調剤部門マネージャー

薬剤師 国際中醫師認定A級 松島 達也さん



## ● 薬局製造医薬品(煎じ薬)に触れて欲しい

**編集部** 漢方薬に対する薬学生のイメージは、どのようなものでしょうか。

**松島氏** 実務実習先の薬局で、煎じ薬(薬局製造医薬品)を扱っているところが少ないからだと思いますが、漢方薬イコール粉薬だと思っている学生さんが多いですね。

インターンシップで煎じ薬(薬局製造医薬品)を見ていただくと、種類の多さにビックリされ、実際に薬草を量って調べると「漢方薬って、こんなに奥が深いんですね」と驚かれます。

## ● 漢方薬局に向いている薬剤師のタイプ

**編集部** どのような薬剤師が、漢方薬局に向いているのでしょうか。

**松島氏** 薬ではなく、人に興味を持てる人です。漢方薬局は相談薬局とも言われ、ずっと昔からかかりつけ薬局としての薬剤師の役割を担っています。ご予約をいただき、30分くらいかけてお話をうかがい、体質や症状を見て、薬を選び、お出しします。

病院やクリニックとの違いは、小売業という面です。そこには、営業努力も必要になります。人に興味を持てなければ、患者さんの求めているものがわかりませんし、納得いただける説明もできません。何よりもこの人に相談しようという信頼関係を築くことができません。相手に興味を持ち、コミュニケーションをとろうという姿勢がなければ、心を開いてはけません。

さらに信頼を獲得するための重要なのが、知識です。漢方に限らず、学びに対する努力を惜しまない人でなければなりません。

## ● 日本漢方と中医学の違い

**編集部** 貴社は中医学の専門性を生かしているとのことですが、日本漢方との違いをお教えてください。

**松島氏** 薬学部で中医学専門の研究室があるのは、東京薬科大学だけではないでしょうか。

日本漢方は「方証相対」といって薬に重きを置いた手法です。薬に患者さんを合わせていきますので、当然、多くの経験が求められます。

中医学は患者さんの体質に合わせて薬

を調合する「<sup>べんしんしょうらん</sup>弁証論治」というしっかりした理論があり、勉強すれば外れた漢方を出すことはありません。

## ● どのように中医学を学ぶのか

**編集部** 入社後、中医学を学べるのでしょうか。また、国際中醫師とはどのような資格ですか。

**松島氏** 中医学を専門に教える学校から国際中醫師の資格を有する講師を招き、基礎から学び3年間で中医学の土台を作ります。その後経験を積み重ねて5年目に国際中醫師の資格試験を受けることができます。店舗で臨床の経験を積み、店長クラスになるとさらに中医学を深く学ぶために中国に研修に行くこともあります。

同じ研修を受けても、主体的に勉強しようという姿勢でなければ伸びません。1年間で差が出てきます。知識がないと相談を受けることができませんので、先輩の補助をして勉強を重ねます。3年くらいは修行と言える状況かもしれませんが、4年目には治療家として患者さんの相談を受けられるようになります。ただ、そこまで届かずに諦めてしまう人もいます。患者さんから信頼を得られないからです。逆に、早く一人前になりたいと、努力を惜しまない人は3年を待たずに次のステップに進めます。学ぶだけでなく、行動が起こせるかでもさらに差が出ます。行動力のある人はどんどん伸びます。

国際中醫師は、中国政府によって認定された国際資格です。漢方医療の専門家として、薬だけでなく、生活習慣や薬膳を含む食事の指導も行います。薬剤師でなくても受験が可能で、栄養士や患者さんだった方が自身のからだが良くなったことで、という例もあります。試験は日本で受けられます。中国には中醫師という医師の資格もあります。日本での医師の資格とは異なるので、中医学アドバイザーとして活躍しています。

## ● 辛い気持ちを抱えた患者さん

**編集部** どのような患者さんが多いのでしょうか。

**松島氏** 漢方薬局は、病院で思うような結果が得られなかった患者さんの受け皿になっており、疾患もある程度、限られています。不妊症、更年期障害、ニキビ、アトピー

性皮膚炎などの皮膚疾患、がんや免疫の疾患、難治性の疾患の方もいらっしゃいます。いずれも辛い気持ちを抱えた患者さんです。ですから、人が好きでなければ受け止められないのです。人と話すのが好きで、人の話を聞くのが好き。それが初めから備わってなくても、仕事をしていく中で醸成され、成長できる人が治療家として残っていきます。医療用医薬品やサプリメントの相談も受けますので、まさにかかりつけ薬剤師です。

## ● 勉強は若いうちに始めるのがベスト

**編集部** 薬学生へのアドバイスをお願いします。

**松島氏** 今しかできないことをやって欲しいですね。後々ではなく、興味があるのなら、今です。薬剤師を取り巻く環境はどんどん変わっていきます。悠長なことは言っていない時代です。自分が何をやりたいのかを真剣に考えて、新しい世界に飛び込んで欲しいです。

漢方に興味があるのなら、どうぞ漢方の世界に来てください。病院や薬局の実習を経験し、スタンダードな薬局での業務が当たり前だと思われていると、初めての事やちょっと違う事に対して抵抗を感じてしまうかもしれませんが、漢方薬局に転職してこられる方は、病院や調剤メインの薬局からの転職というケースが少なくありません。その理由は、もっと患者さんとアグレッシブにお話をして、しっかりとその方の健康管理をしたいという思いです。

勉強は、できる限り若いうちに始めた方が良いですね。新しいことを吸収するためには、時間が必要です。薬剤師としての専門性をどのように追及するかにもよりますが、自分の時間を自由に使える20代のうちに、一生役立つ、他の薬剤師と差別化のできる技術を身に付けて欲しいと思います。

十分に実力を付けてから故郷に戻って、漢方薬局をオープンさせた人もいます。私たちが出会える患者さんは一部の方に限られてしまうので、中医学の仲間が全国に広がっていけばと、会社として独立開業も応援しています。

**編集部** 本日はお忙しい中、ありがとうございました。